

Challenge!

女性も、男性も…

明日から

「もっと輝く私」になる！

令和元年度女性のチャレンジ支援事業

女性のチャレンジシンポジウム 講座概要

特集

女性のチャレンジ

10/27開催

『もっと輝く明日からの生き方

～女性が生み出すソーシャル・インパクト、キーワードは「エンパワーメント」～』

講師 大崎 麻子さん

特定非営利活動法人Gender Action Platform理事、
公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事、
関西学院大学客員教授、元国連開発計画 (UNDP) 職員

上智大学卒業後、米国コロンビア大学国際関係・公共政策大学院で国際関係修士号を取得。国連開発機構 (UNDP) ニューヨーク本部開発政策局ジェンダー・チームで、途上国の「ジェンダー平等の推進と女性のエンパワーメント」を担当し、世界各地で女子教育や雇用・企業支援、政治参加の促進などのプロジェクトを手掛け、UNDP内の女性活躍推進にも従事する。大学院在学中に長男を、国連在職中に長女を出産し、子連れ出張も多数経験する。また、ニューヨークと東京での子育て経験を活かし、グローバル教育の推進や女性のためのライフ&キャリアデザイン支援にも取り組む。



世界共通のジェンダー課題

- ・女性に対する暴力 (性暴力、DV、セクシャル・ハラスメント) の根絶
- ・無償ケア労働 (家事、育児、介護、看護) の負担の軽減と責任の再分配 (シェアリング)
- ・STEM (科学・技術・工学・数学) / デジタル領域の教育と参画の拡大
- ・意思決定・方針決定過程への女性の参画 (国会議員、管理職・役員などの意思決定ポジション) の推進

世界が目指しているのは、

ジェンダー平等 & 女性のエンパワーメント

男性と女性が等しく権利、機会、責任を持ち、意思決定にも対等に参画する

地域や社会と繋がり、色々な人たちと「助け合いながら生きる」「より良い社会を築いていく」ための術を身につけること

女性のエンパワーメントのステップ

- ① 自信
- ② 心と身体の健康
- ③ 知識・技能
- ④ 経済的な力
- ⑤ 共有できる場

そのために必要なこと

- ① 健康 (自己肯定感、リプロダクティブヘルス/ライツ)
- ② 教育 (自分の頭で考える力 [クリティカルシンキング]・社会の仕組み、動きを読み解く力 [リテラシー])
- ③ 生計手段 (経済的自立、リスク管理・備え)
- ④ 参画 (繋がる、助け合う、よりよい社会を創る)

そして、受援力 (助けを求める力)

エンパワーメント = 幸せの土台。
それがグローバル・スタンダード

日本の課題

男女共同参画社会の形成の促進にあたっては、誰もが自らの意欲と能力によって自分の未来を切り開いていくこと、夢や志を実現することが可能であると信じられるような、柔軟で活力ある社会にすることが大切である。しかし、現状では女性が、変化に応じ、様々な分野でチャレンジし、豊かさを感じられる生活を送るために、多様な選択肢がある中から、自分にとって適切な選択を行うための具体的なイメージを描くことは難しい。(内閣府男女共同参画局)

ジェンダーギャップ指数【2019】 (153か国中)

1位	アイスランド
2位	ノルウェー
3位	フィンランド
...	...
121位	日本

日本・・・2018年は110位/149か国

世界経済フォーラムが経済・教育・保健・政治の4分野14項目のデータから算出した男女格差指数(GGI)

性差別の解消

日本には、セクシャル・ハラスメントに関する法律がない！賃金格差の是正

環境整備
法律・政策・予算

アンコンシャス・バイアス (無意識の偏見)

家事や育児、介護や看護は女性がやるのが当たり前！？

ワーク・ライフ・バランス

意識変革

一人ひとりが生きやすく、暮らしやすい社会を創り、

持続させるために必要な「4つのWORK」

これからの時代の「ワーク」とは？

<p>有償労働 報酬のある仕事・職業</p>	<p>無償ケア労働 家事・育児・看護・介護等のケア労働</p>
<p>ボランティア・地域活動 PTAや町内会などの地域活動、社会奉仕・社会貢献活動などの報酬のない仕事</p>	<p>創造的な活動 自分の創造力を使って、何かを生み出したり、表現したりする活動</p>

WORK
仕事・活動

UNDP 「Work for Human Development」(人間開発のための「WORK」)

人生を豊かにするための「4つのWORK」で自分のライフプランを立てよう！

大崎麻子『働くミレニアル女子が身につけたい力EMPOWERMENTエンパワメント』,2017より

SDGs(持続可能な開発目標)の「キーワード」 「持続しない世界を、持続する世界へ」

- ①誰一人、取り残さない
- ②すべての国が取り組む
- ③今までのやり方、考え方を変える
- ④みんなでやる:政府、国際機関、NGO、企業、教育機関、自治体、そしてひとりひとり
- ⑤ジェンダー主流化(ジェンダーの視点をすべてのゴールに主流化する)

地球環境も、社会も、経済も
ジェンダー平等なしには持続できない!!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



幸福度は男女共同参画社会の実現に相関する！？

国連幸福デーの3/20に国連が毎年発表している。各国の国民が「どれくらい幸せと感じているか」を評価した調査に加えて、人口当たりのGDP、健康な平均寿命、社会的支援、人生の選択をする自由、性の平等性、社会の腐敗度といった項目をポイント化したものをもとに幸福度を計ったもの。

世界幸福度ランキング(2019)

1位	フィンランド
2位	デンマーク
3位	ノルウェー
4位	アイスランド
5位	オランダ
6位	スイス
7位	スウェーデン
...	...
58位	日本(2018年は54位)

column